

【Present Tree for さんむ 日向の森】

プレゼントツリー事業を活用した日向の森の森林整備について

1 プレゼントツリーについて

プレゼントツリーとは、市民参加型の植林プロジェクトで

1. はじめは「気の利いた贈り物」として目に付き参加し、
 2. そこに「自分が関与する樹」が植わっているという愛着が湧き、
 3. いずれその森全体に思いが至り、
 4. 森に行きたくなり当地を訪れ、
 5. 当地の人たちとも縁が生まれ、
 6. 当地の賑わいや経済的活性化にも寄与するようになり、
 7. 故に森も潤い続ける
- という好循環が期待できる。

【プレゼントツリー事業を用いる効果】

- ア 民間イベント等による周知で大々的に活動を PR できると同時に、山武市、サンプスギの知名度向上につながる。
- イ 寄付者の多くは都心在住者が多いことから、山武市と縁のなかった人々とのつながりが生まれ、地域振興につながる。
- ウ 整備費用が外部から得られる。

2 プレゼントツリー事業

(1) 概要

認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所が市民や企業から寄付金を募り、これを財源として植林及び森林整備（下刈り）を 10 年間実施する。植林された樹木の所有権は土地所有者のものとなる。

- ア 主 催 認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
- イ 実施区域 山武市「日向の森」約 45ha のうち約 1.84ha
- ウ 実施期間 平成 23 年 6 月 日から平成 33 年 6 月 日（10 年間）
- エ 関係機関（森林整備協定締結）
 - ・土地提供者
山武市 役割：土地提供、各種イベント協力、PR、森林整備指導
 - ・森林整備実施主体
認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
役割：プレゼントツリーの運営に関する一切
 - ・地元協力団体
さんむフォレスト 役割：森林整備指導、各種イベント協力
 - ・森林整備活動受託者
千葉県森林組合（北総支所） 役割：植林及び下刈り（NPO より受託）

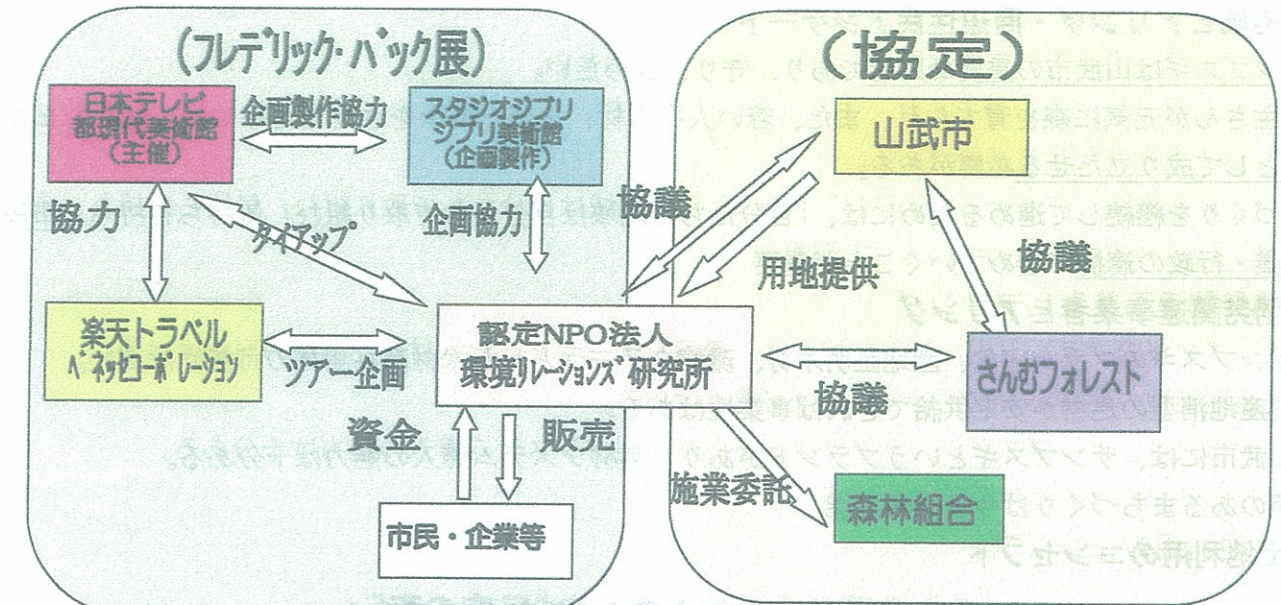
(2) フレデリック・バック展との連携

東京都現代美術館で開催される「フレデリック・バック展（7/2～10/2）」において、同展の一環としてプレゼントツリー事業が共同企画されている。

同展におけるプレゼントツリーの募金活動について、主催者の日本テレビと認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所が寄付金付チケットの販売等でタイアップしており、同展の開催に合わせて、山武市においてプレゼントツリー事業によって実施する森林整備の協定を締結するものである。

（フレデリック・バック展）

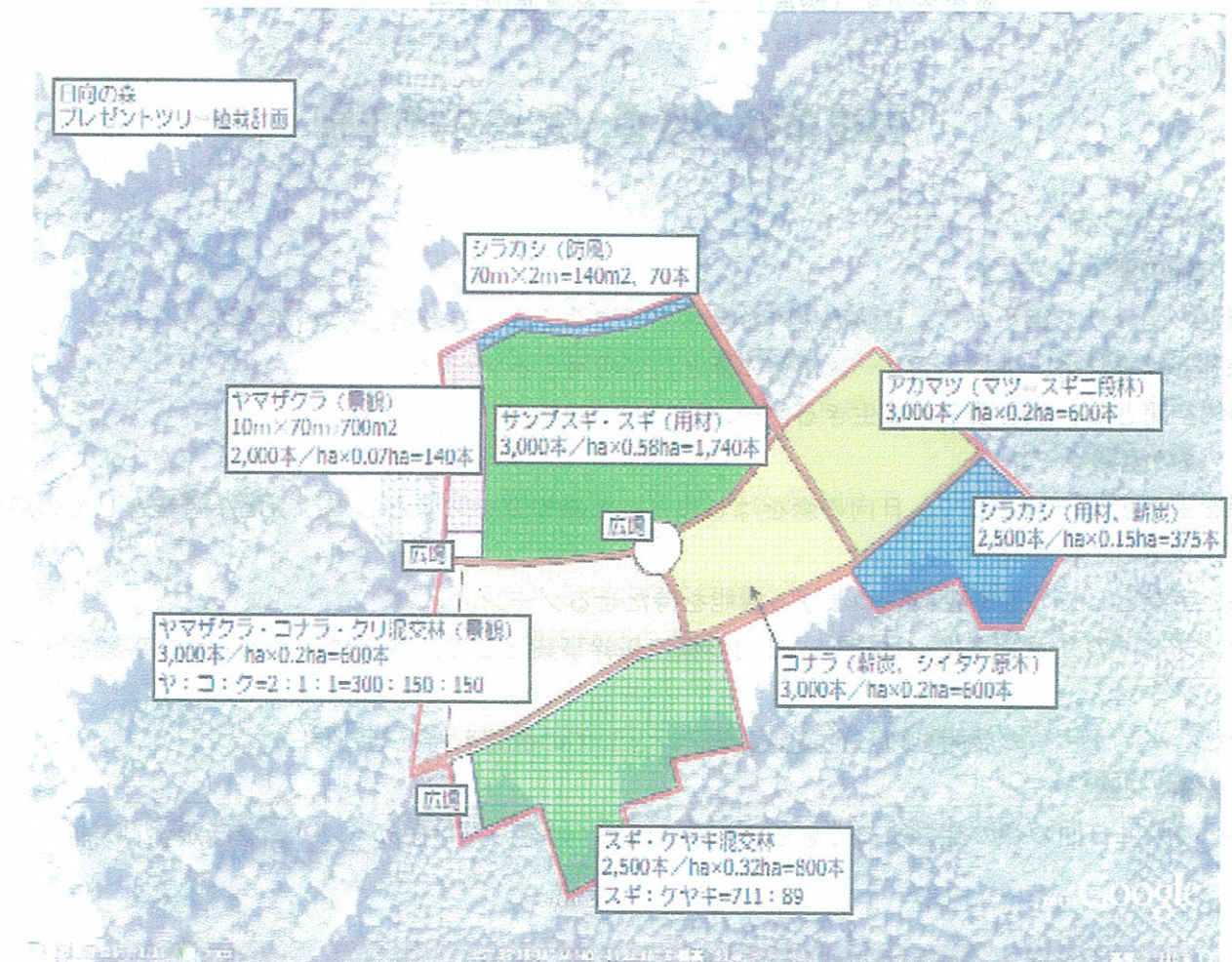
アカデミー賞短編アニメーション賞を 2 度受賞したアニメーション作家、代表作に「木を植えた男」などがある。主催は、東京都現代美術館及び日本テレビ放送網等、企画制作協力にスタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館。



※協議は、主に植栽等やイベント実施の内容についての協議

(3) 森林整備計画

市は、寄付いただいた方々の思いを 100 年後に引き継ぐため、寄付者及び市民と共に、適切に森林整備を行うものとする。



「日向の森」の土地利用について

1. 地域ヒアリング・周辺住民アンケート

- ✧ サンプスギは山武市の重要な財産であり、守り、広めたい。
- ✧ 山主さんが元気に森を育てられ、また、若い人へ木材、技術の継承をさせるためには、林業をビジネスとして成り立たせる必要がある。
- ✧ 森づくりを継続して進めるためには、「自分たちの地域は自分たちで取り組む」気持ちを持ち、市民・企業・行政の連携で進めていくことが重要

2. 開発関連事業者ヒアリング

- ✧ サンプスギのブランド化、産地証明木材、環境をテーマとした木材商品開発の可能性は高い。
- ✧ 地産地消型の建材が安定供給できれば事業性はある。
- ✧ 山武市には、サンプスギというブランドがあり、製材システム導入の魅力は十分ある。
- ✧ 農のあるまちづくりは今後発展可能

3. 土地利用のコンセプト

『人の環が生み出す豊かな“日向の森”』

農と林の恵みの中で暮らしを楽しみ、森との生活を取り戻す

森をつくる（環境） → 美しい森の形成

森をつなぐ（社会） → 自然とふれあう暮らし

森を活かす（経営） → 森林資源の活用

100年後のふるさとへの贈り物

4. ゾーニング

（1）森の暮らしゾーン

- 森との関わりを深く保ち、自然の恵みを自らの手でつくり、その楽しみを満喫するゾーン。
- 森林部は森林浴、森林セラピー、散策の森として活用するゾーン。
- 静的空間とし、森と農と共に生きるゾーン

（2）森の産業ゾーン

- 森を生かすゾーンとして、日向の森をはじめとした森の宝を財産として、新たな産業としての森の宝を作り出していくゾーン。
- 森と産業としての農や企業をつなげる機能を持たせるゾーン。
- サンプスギのブランド化を目指し、日向の森の基幹事業として、さらに、バイオマス事業をサポートするゾーン。
- 新たなバイオマスの展開を図る企業参画ゾーンとしての機能も持たせるゾーン。

（3）森の交流ゾーン

- 多くの人に日向の森の宝を知ってもらい、森づくりへのきっかけをつくる「森を活かす」機能ゾーン。

- 農体験ができる市民農園や耕作されていない谷津田を活用した農とのふれあい、収穫の喜びなどの農体験エリア、芝生広場やスポーツが楽しめるレクリエーションエリア、サンプスギのモデルハウス、森を楽しむ体験する森の工房等、市内外からの人々を受け入れるゾーン。

（4）森のふれあいゾーン

- 谷津の環境を利用した自然の恵みが体験できるパブリック型のゾーン。
- 日向の森から流れ出る清らかな水にはぐくまれた蛍、湿地に住む生き物達の観察など、自然とのふれあいを通じて日向の森の宝を知るゾーン。

